

産学協働人財育成円卓会議～元気な日本復興・復活のために～

オールジャパンの視点からの戦略的な産学協働により、グローバルな視点でイノベーションを創出し、新しい日本社会を牽引するイノベティブな人材の養成を図るため、産学のリーダーが結集【平成23年7月27日 発足】

石原邦夫	東京海上日動火災保険株式会社 取締役会長
槍田松瑩	三井物産株式会社 取締役会長
江頭敏明	三井住友海上火災保険株式会社 取締役会長
大橋洋治	全日本空輸株式会社 取締役会長
大八木成男	帝人株式会社 代表取締役社長
◎川村隆	日立製作所株式会社 取締役会長
○北山禎介	株式会社三井住友フィナンシャルグループ 代表取締役社長
小林栄三	伊藤忠商事株式会社 代表取締役会長
志賀俊之	日産自動車株式会社 最高執行責任者
篠塚勝正	沖電気工業株式会社 相談役
下村節宏	三菱電機株式会社 取締役会長
数土文夫	JFEホールディングス 相談役
佃和夫	三菱重工業株式会社 取締役会長
永山治	中外製薬株式会社 代表取締役社長
藤吉建二	三井化学株式会社 取締役会長
松下正幸	パナソニック株式会社 代表取締役副会長
三浦惺	日本電信電話株式会社 代表取締役社長
三村明夫	新日本製鐵株式会社 代表取締役会長
山下徹	株式会社エヌ・ティ・ティ・データ 代表取締役社長
渡辺捷昭	トヨタ自動車株式会社 代表取締役副会長

有川節夫	九州大学 総長
伊賀健一	東京工業大学 学長
井上明久	東北大学 総長
○鎌田薫	早稲田大学 総長
佐伯浩	北海道大学 総長
清家篤	慶應義塾 塾長
濱口道成	名古屋大学 総長
◎濱田純一	東京大学 総長
松本紘	京都大学 総長
山内進	一橋大学 学長
山田信博	筑波大学 学長
鷲田清一	大阪大学 総長

◎協同座長
○座長代理

産学協働人財育成円卓会議 アクションプランの概要

【新しい日本社会を牽引する人材像】

- 我が国が、新たな成長と発展を遂げるには、世界を舞台に活躍できるタフネスとグローバルな視点を併せ持ち、我が国の「新たな価値」を創造できる人材育成が決定的に重要。
- 世界を舞台にリーダーシップを発揮して活躍できるグローバル人材、既成概念にとらわれないアイデアやモデルで「新たな価値」や「解」を創出するイノベーション人材の2つを主に議論。

【取組の方向性】

<大学教育の質の向上と産業界との効果的な接続>

- 大学に期待する取組：「タフな学生」の育成、主体的に考える力・課題発見能力等の養成、リベラルアーツ教育の充実等。
- 企業に期待する取組：採用の早期化・長期化の是正、求める人材像の明確化と発信、学生の学びの適切な評価・活用。

<グローバル人材の育成・確保>

- 海外留学促進に向けた大学による組織的な支援、留学は不利にならないという企業からのメッセージが必要。世界に開かれた大学となることも必要。
- 海外の学生の帰国のタイミングに合わせた採用（夏・秋採用、通年採用）の拡充や海外インターンシップなどの機会が必要。

<知の拠点である大学を活用したイノベーション人材の育成>

- 企業は博士人材の活用に消極的。大学においては産業界が求める能力を備えた人材養成ができていない。
- 大学では高度な専門分野の知識とともに、幅広い知識、俯瞰力、独創力等を備えた博士の養成、企業では大学のカリキュラムや教育プログラムの充実への協力や優れた能力の博士人材の積極的な採用が重要。

<産学の人材交流・流動化の促進>

- 企業と大学の積極的な人材交流により、双方向の理解を深めることが不可欠（共同研究を通じた研究者の派遣・交流、公募制・任期付きによる企業人材の活用など）。
- 受入体制の整備、異なる機関での経験・実績がキャリアアップにつながるようなインセンティブの付与等、交流を容易にする仕組みづくりも必要。

【企業・大学による7つのアクション】

業種や分野、これまでの取組状況等に応じて、各企業・大学において、着手が可能となったものからスピーディに実行。

アクション1：世界を舞台に活躍できるグローバル人材の育成のための教育を充実・強化します

(例) ロールモデルとなる企業人材を講師として大学に派遣するなど実践的な教育を支援

アクション2：日本の若者が積極的に海外留学・海外経験ができる環境づくりに取り組みます

(例) 学生の海外留学を大幅に促進するための組織的な取組の充実・強化

アクション3：世界中の優秀な若者が、日本で学び、働きたいと思う環境づくりに取り組みます

(例) 外国人留学生を対象とした企業セミナーの実施、留学生の受入れの拡大

アクション4：グローバル化に対応した大学の教育環境整備に取り組みます

(例) 大学のグローバル化を強力に推進するための柔軟なアカデミックカレンダーの検討・設定及び企業からの積極的な協力

アクション5：社会に新たな価値や成長モデルを創造するイノベーション人材の育成・活用を充実・強化します

(例) 企業によるイノベーション人材の積極的な採用・活用に向けた取組の充実・強化、大学院における専門分野を超えた幅広い知識を有するイノベーション人材育成の取組推進

アクション6：共同研究・協働作業を通じた人材の育成を行うとともに、人材の流動化を促進します

(例) 企業・大学双方の情報交換窓口の設置による交流の促進

アクション7：我が国の明日を担う若者への奨学金等経済的支援の充実に取り組みます

(例) 企業による奨学金の充実、大学による奨学金情報の提供

【政府に求める取組】

- 産学官協働のプラットフォームの構築に向けた取組を進め、一つの社会運動として継続的に推進。
- 大学の基盤的経費の安定的な財源確保、産学協働による人材育成や研究開発、奨学金の拡充など。

【円卓会議の今後の取組】

参加企業・大学が着実に人材育成の取組を推進し、プラットフォームを通じた対話・協働により優れた取組に関する情報を共有するとともに、積極的に情報発信し、社会全体として産学協働で人材育成に取り組む契機となることを期待。

学士課程教育の質的転換の関連資料

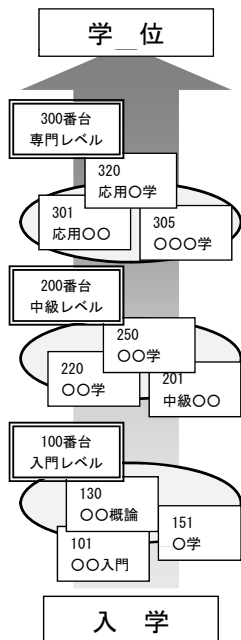
ナンバリングについて (1)

ナンバリング、あるいはコース・ナンバリング。授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系的性を明示する仕組みで、①大学内における授業科目の分類、②複数大学間での授業科目の共通分類という二つの意味を持つ。

対象とするレベル(学年など)や学問の分類を示すことは、学生が適切な授業科目を選択する助けとなるため、GPA制度やキャップ制と併用されることが望ましいと考えられる。

また、科目同士の整理・統合と連携により教員が個々の科目の充実に注力できるといった効果も期待できる。

イメージ



国際基督教大学の例

- ・ 授業科目の学修段階や順序等の体系的性を明示
- ・ 学生がレベルや専門を勘案して授業科目を履修できるようにする

例: 英語プログラム(中級基礎) 読解と論文作法
→ELP001(アルファベットと数字で表記)

<科目の分類>

全 学 共 通	語学教育	英語	E L P
	一般教育	人文科学系列	G E X
授 業 科 目	アメリカ研究		A M S
	美術・考古学		A R A

<科目の段階>

001-099	語学教育科目(英語・日本語) 一般教育科目
101-199	メジャー基礎科目 全学共通初級科目
201-299	メジャー専攻中級科目 全学共通中級科目

早稲田大学国際教養学部の例

- ・ 専門分野を七つのクラスターに分類し、各クラスター毎に4段階のレベルを設定

例: Biological Anthropology(上級科目)
→LE401(アルファベットと数字で表記)

<科目の分類>

基礎演習科目、入門統計学	G E
英語、第2外国語	C O
生命科学・生命倫理・環境科学・環境政策・地球科学・科学研究	L E
経済・ビジネス・経営・マーケティング	E B

<科目の段階>

100番台	基礎演習・入門統計学・英語科目・第2外国語
200番台	入門科目
300番台	中級科目
400番台	上級科目
500番台	ゼミ及び卒業論文

ナンバリングについて (2) 【アメリカの例】

Texas Common Course Numbering System (TCCNS)

テキサス州のカレッジとユニバーシティの、1・2年次における一般教養科目コースの科目履修において、学生の大学間移動を援助する目的で設計されたもの。

このシステムに参加する機関において、他大学で修得した単位を自大学で修得した単位として認定される。テキサス州の110の高等教育機関が参加している。

Texas Common Course Numbering System

The Texas Common Course Numbering System (TCCNS) has been designed for the purpose of aiding students in the transfer of general academic courses between colleges and universities throughout Texas. Common courses are freshman and sophomore academic credit courses that have been identified as common by institutions that are members of the common course numbering system. The system ensures that if the student takes the courses the receiving institution designates as common, then the courses will be accepted in transfer and the credit will be treated as if the courses had actually been taken on the receiving institution's campus.

The table below lists the courses Texas A&M University has identified as common and their TCCNS equivalents. Before using this table students should be sure that the institution they attend employs the TCCNS.

This table is revised quarterly in January, March, June and September. The most recent version may be obtained from the Office of Admissions and Records.

The current version of this document may be found on the Office of Admissions and Records Web site at www.tamu.edu/admissions/undergrad/tccns.shtml.

各大学のナンバリング	Texas A&M Course	TCCNS Equivalent Course
	ACCT 229	Intro. Accounting ACCT 2301
	ACCT 229	Intro. Accounting ACCT 2401
	ACCT 230	Intro. Accounting ACCT 2302
	ACCT 230	Intro. Accounting ACCT 2402
	AGEC 105	Intro. to Agri. Economics AGRI 2317

出典: Texas A&M University 09-10 Undergraduate Catalog

【TCCNS 科目ナンバーの例】

Intro. Accounting ACCT 2301

↓ ↓ ↓
科目名 Department

1桁目	コースレベル (1→1年、2→2年)
2桁目	単位数
3・4桁目	department毎のコース・コード

学位プログラム中心の授業科目の編成① ～新潟大学の育成する人材像に即した4年一貫の教育プログラム～

新潟大学の学士課程教育のデザイン

旧来型の共通教育と専門教育を廃し、育成する人材像に即した4年一貫の教育プログラム(主専攻プログラム)による教育を実現する。

- 「教育資源」の共通化**
教員組織と教育組織の分離
授業科目の共通化と分野・水準コードの付与
- 人材育成目標に即した教育プログラムの構築**
主専攻プログラムの整備
- 学生の学習成果の実質化**
新潟大学学士カアセスメントシステム(NBAS)の構築

授業科目の体系化

〈水準コード〉

1の位の数字	
1	大学学習法など、大学での学習を円滑にするためのもの
2	高等学校との接続を意識した水準(リメディアル)
3	通常の大学の基礎的水準
4	専門の中核的水準
5	発展的内容の科目で大学院との接続水準

10の位の数字	
0	全学の学生を受け入れることが可能な科目
1	当該学部(学科)の学生に限られる科目
2	教員免許など資格に関わる科目

分野・水準表示法

全授業科目に**分野と水準**を示すコード

- ① 学生に、授業科目の学問分野と水準を示す
- ② 担当教員に授業科目の”公共性”の確保を要請する

☆ 分野は**学問分野の区分**：科研費の区分に準拠
教育プログラムに即したものではない

☆ 水準：**内容の積み重ね**
大学レベルの授業：3/4/5の3段階
分野・水準 →→→ 授業科目の達成目標

学部・学科の教育課程の主専攻プログラム化

(学問分野を背景とした「学科」から「人材育成プログラム」へ)
〈プログラムの整備〉

- ・ 設置目的を明示し、明確な**人材養成目標**(学習成果)を掲げる。
- ・ その学習成果は、**専門・教養を含めた到達目標**とする。
- ・ 学生が到達目標に至るための**学習方略**を明示する。
- ・ プログラムは必要十分な授業科目から構成され、**各授業科目と到達目標との関係**を明示する。

〈プログラム担当教員集団の機能の明確化〉

- ・ 担当教員集団がプログラムにおける教育活動について**共通意志**を持つ。そのための具体的方策(**FD活動等**)を備える。
- ・ 主専攻プログラムの**成果を検証し**、プログラムの改革を進める“しくみ”を備える。
「プログラムシラバス」作成作業を通じて、抜本的改革を図る。

大学教育部会(第15回)(H24年5月21日)新潟大学濱口副学長説明資料より

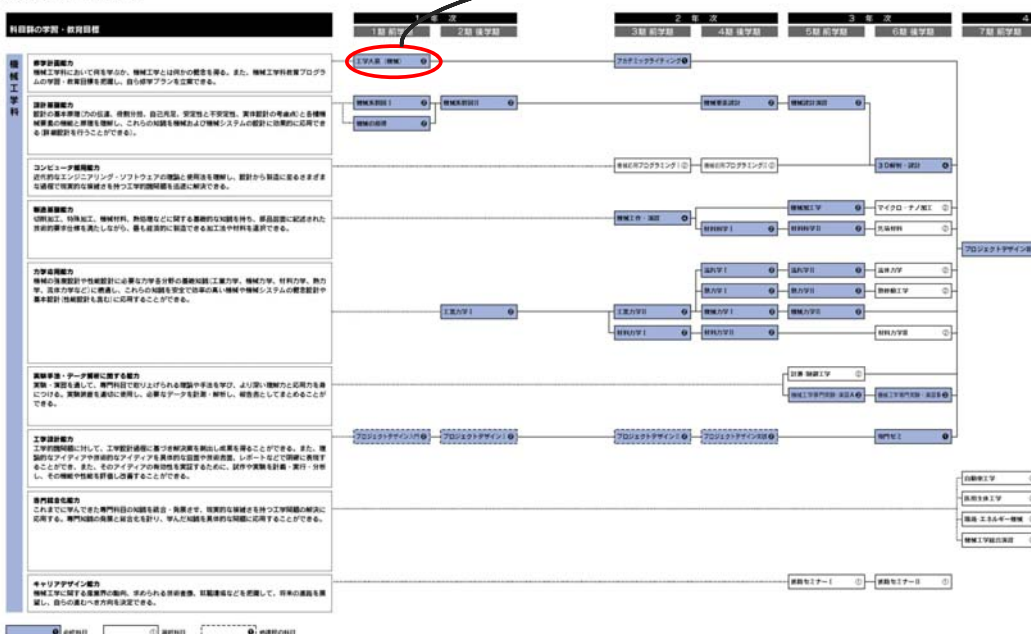
学位プログラム中心の授業科目の編成② ～金沢工業大学のカリキュラム・フロー(マップ)の例～

各学科が掲げる教育目標を明示するとともに、その目標達成のために必要な授業科目を系統的に配置し、その関連性を明示している。

機械工学科

Department of Mechanical Engineering

■学域 教育目標
機械工学は産業振興の中心をなす分野である。これによって自動車、家電製品、工作機械、エネルギー機械、宇宙航空機など多くの製品を輩出してきた。一方、省エネルギー、環境負荷低減、安全・信頼性向上への要求が高まってきている。本学科では、機械工学に関する基礎知識を身に付け、ものづくりのための設計、応用技術、新素材とその加工方法、環境・エネルギーに関する技術を修得し、社会的要請に対応できる機械技術者を育成する。



〈科目の概要〉

E001 学大意(機械) I
社会を支える「ものづくり」の三大技術である機械分野、電気・電子分野、情報分野の技術について、工学と社会とのつながり、歴史および現在、未来の技術について学び、「自ら考えて行動する技術者」としての第1歩を踏み出す意識を明確にする。各分野における学ぶ領域、学問の広がりを選び、各自の将来の目標、夢を実現するためのキャリア形成を意識して、修学計画能力を身につけ、今後の学習姿勢を確立する。「覚える・暗記する」学習現象や物事の本質を論理的に考える力(科学力)、デザイン力の醸成を目標とする。

行動目標 現代社会における工学部の役割を理解し、自身の修学計画を立案することができる。機械工学科の「学ぶ領域」、研究分野を理解し、今後の勉学の方法、履修計画について主体的に考えることができる。「設計」「機械加工」について概略を説明できる。「機械材料」「塑性加工」について概略を説明できる。「流体力学」「熱力学」について概略を説明できる。自身のキャリア形成プロセスを自身の言葉で述べ、それを第三者に伝える事ができる。

TA (ティーチングアシスタント)・SA (スチューデントアシスタント) について

- 優秀な大学院生に対し、教育的配慮の下に、学部学生等に対する助言や実施・実習等の教育補助業務を行わせ、大学院生の教育トレーニングの機会を提供するとともに、これに対する手当を支給し、大学院生の処遇改善の一助とすることを目的としたもの。
- また、大学院でなく、学士課程の学生を教育の補助業務に携わらせる場合、TAとは区別して スチューデントアシスタント(SA)と称することが多い。

北海道大学の全学教育TAの例

(採用資格)

- ・大学院に在籍する優秀な学生
- ・全学教育科目の実験、実習、演習等において、優れた指導能力を有するもの

(現状)

- ・約1,000人

(職務内容)

- ・学部学生又は修士課程学生に対する実験、実習、演習等の教育補助業務
- ・勤務時間は、週30時間を超えない範囲で、当該学生の研究指導、授業等に支障が生じないよう配慮して、選考部局の長が定める

(TA研修)

- ・授業科目の担当教員による指導のほか、事前オリエンテーションを義務づけ

- ・目的 (1) 大学教育の基礎を理解する
- (2) 全学教育の趣旨を理解する: 目的、意義、全体での位置づけ
- (3) 基礎的な教育技術、心構え、教育理論を理解する
- (4) 担当する科目の内容と教授法を理解する
- (5) TA相互の交流をはかる

- ・研修プログラム(14の分科会に分けて研修を実施)

- | | |
|----------------|----------------|
| ① 一般教育演習 | ⑥ 英語Ⅱオンライン授業 |
| ② 一般教育演習/フィールド | ⑦ 英語Ⅱ以外の英語の授業 |
| ③ 講義 | ⑧ 初習外国語(中国語以外) |
| ④ 論文指導 | ⑨ 中国語 |
| ⑤ 情報学 | ⑩ 文系基礎科目 など |

- ・このほか、大学院の授業科目として、「情報学教育特論」「大学院生のための大学教員養成(PFF)講座」も開設。

千葉商科大学のSA制度の例(TAに加えて実施)

(選抜する際の具体的な観点)

- ・SAは、原則として本学の学部在籍し、当該科目の単位を修得済みで、かつ、その科目の成績が優秀であることが望ましい。

(人数)

- ・商経学部、政策情報学部、サービス創造学部の各学部が定める(本年度は、春356人、秋285人)

<政策情報学部の例>

- ・TA及びSAの利用を申請できる授業科目は、次の条件のいずれかを満たすものとする。

- (1) ツール科目群又はコンピュータ実習室を使用する科目、あるいはそれに準ずる特殊な教室を使って実習形式の授業を行う科目で、1コマあたりのTA及びSAの人数は、原則として次の通りとする。

- ① 履修者10人以上につき1人の採用とする。
- ② 履修者20人以上の場合、必要であれば1人を追加申請できるものとする。

- (2) 履修者が180人以上の科目

(SAの研修やマニュアル)

- ・TA・SAの採用を希望する学生に、「TA及びSAの申請に当たって」を配布。

(学生への効果)

- ・TA・SAは、主としてコンピュータを使った実習・演習形式の授業や外国語の授業が多く、履修学生の進捗状況や習熟状況などが異なるため、TA・SAが個別に対応し、履修学生の授業の理解度やスキル向上につながり、きめ細やかな教育が可能。教員からは、SAを採用した結果、途中授業放棄をする学生数が減少したという報告もある。

学修成果の把握について (1)

【アセスメント・テスト】

- 学修成果の測定・把握の手段の一つ。ペーパーテスト等により学生の知識・能力等を測定するための取組の総称、標準化テストとも呼ばれる。米国等で導入されているCLA、MAPP等がこれに当たる。
- 米国で導入されているアセスメントテストは、一般に大学内の低学年・高学年双方が受験し、その点数の推移等で大学の教育効果を把握する目的で導入されており、学生個々人の能力を判定するものとは異なる。

CLA (The Collegiate Learning Assessment)

目的: 大学の教育力によりどれほど変容したか(付加価値)の比較測定

実施機関: 教育支援協議会 (Council for Aid to Education)

内容: (構成)

作業課題(与えられた資料を活用し、実生活の活動に係る課題を完遂する。)

分析的課題(「議論の構成」: 問題に対する意見を学生に提示して、それに対する賛否の理由を説明させる、「批評・討論」: 他人の論述を斟酌し、その結論の適切さを評価する。)

(評価する能力)

文章力 (Written Communication)

批判的思考力 (Critical Thinking)

問題解決力 (Problem Solving)

分析的論理付け能力 (Analytic Reasoning)

解答形式: 記述式

実施方法: 1機関あたり150人程度のサンプル調査
第1学年時と最高学年時において受験し、学生の付加価値を機関ごとに評価

実施規模: 参加機関数約750機関で約50万人

○問題例

【作業課題】 (Performance-task)

受験者を企業の社長アシスタントだと仮定して、会社専用機の購入について資料を元に検討する。

「航空事故の新聞記事」「連邦政府の単一エンジン搭載機の事故報告書」「航空機販売会社の営業担当者からのe-mail」「メーカー作成の機体性能データ表」「パイロットによる当該機種と他機種の比較記事」「180型と250型のカタログ」

【分析的課題】

- (1) Make-an-Argument (議論の構成)

関連する例や理由を示しつつ、特定の主張を補強するような論を述べよ。
・例題「政府は犯罪の処理よりも、犯罪の抑止に資金を費やすべきだ」

- (2) Critique-an-Argument (批評・討論)

特定の主張に関して、肯定あるいは否定の立場から論を述べよ。

・例題「ある定評のある教育系ジャーナルに小学生の肥満を研究対象とした2年間の調査結果が掲載されていた。この研究では、A小学校の5歳から11歳の50人の小学生がサンプルとなっている。

調査前に、A小学校の付近にファストフードレストランがオープンした。2年後、サンプル対象の子どもたちは、平均体重と比べて肥満傾向であった。

この結果を把握していた、B小学校の校長は、学校近くにファストフードレストランがオープンすることに反対することで、自身の小学校の肥満問題に取り組むもうと考えた。

出典: 平成20年度文部科学省委託事業「学生の大学卒業程度の学力を認定する仕組みに関する調査研究」報告書

CLAホームページ (<http://www.collegiatelearningassessment.org/>)

MAPP (Measure of Academic Proficiency and Progress)

目的:一般教育の知識・技能の評価、プログラムの改革

実施機関:教育テストサービス(Education Testing Service)

内容:人文科学、社会科学、自然科学の各分野の文章を読み解答する。

(評価する能力)
批判的思考力(Critical Thinking)
読解力(Reading)
文章力(Writing)
数学的能力(Mathematics)

解答形式:多肢選択式

実施方法:大学が指定する第1~4学年の学生が受験し、学生の付加価値を機関ごとに評価

実施規模:参加機関数約400機関で約50万人

○問題例

【読解力】

社会科学問題からの文章を読んで問題に答える。

(例題)出題文14行目の「Community of disease」によって、著者は何を意味しようとしているのか。以下の最も適切なものを選び。

- (A)ある社会で頻繁に発生する病気に対して、その社会の構成員は抗体を産生させているのが一般的である
- (B)同じ社会に所属している構成員だけがある種の病気に罹りやすい
- (C)世界の多様な民族が同じ病気に感染することにより、それら民族間に関係が構築される
- (D)病気がもたらす壊滅的な影響は、その病気に苦しむ人々の間に、連帯に繋がる要因を形成する

※ベネッセコーポレーション 平成20年度文部科学省委託事業「学生の大学卒業程度の学力を認定する仕組みに関する調査研究」報告書 ETSホームページ(<http://www.ets.org/proficiencyprofile/about>)

学修成果の把握について (2)

【間接評価】

- 学生の行動や満足度に関するアンケートを基本とした調査。複数大学の学生を対象に共通の質問項目で調査を実施することにより、学部間・大学間の状況比較や、学年進行に伴う変化の把握、学内の他のデータ(成績等)と組み合わせて各種の分析に役立てるために開発されたもの。
- 米国ではフルタイム・パートタイムの別、幅広い年齢層、4,600以上の高等教育機関それぞれの目的・性格の違い等を考慮し、「学生の行動にどのような変容を及ぼしたか」という観点での行動調査が行われるようになった。(NSSE、CIRPなど)

NSSE (The National Survey of Student Engagement)

目的:学修過程の把握とそれによる教育改善への活用

実施機関:インディアナ大学

内容:授業内外における活動、授業内における学修成果、教員や他の学生との関わりなど、50問以上の質問が設定されている。

1年次と4年次の比較による変容度調査や、他大学との比較、学内の成績データとの比較分析による行動要因と成績の関連の属性分析等に使用される。

実施方法:インターネット等によるアンケート調査

実施規模:約750機関で約50万人

○調査項目

1. 学生の経験を問うもの。様々な学習機会等について、「非常に多い」「多い」「たまたま」「ほとんどない」の4択で答えさせる。
 - ・授業中の質問や議論への参加
 - ・クラス内でのプレゼンテーション
 - ・宿題や提出課題に対し、提出前に手直しをする機会
 - ・他の学生と共同して行うクラス内/クラス外のプロジェクト
 - ・授業以外での教員との共同活動(委員会やオリエンテーション運営等)など
2. 在学中に、授業により以下のどのような能力が伸びたと感じるか(「非常に伸びた」「伸びた」「多少」「ほとんど伸びない」の4択)
 - ・記憶力
 - ・分析力
 - ・統合力
 - ・判断力
 - ・受容力
9. 1週間で、以下の行動にどれくらい時間を使ったか(時間数を回答)
 - ・授業への準備時間
 - ・キャンパス内/外でのアルバイト
 - ・課外活動への参加
 - ・娯楽
 - ・家族とともに過ごす時間
 - ・習い事

※NSSEホームページ(<http://nsse.iub.edu/>)より作成。

学修成果の把握について (3)

【我が国における事例】

○ 我が国では、各大学、大学間連携、独立行政法人等により、学生調査が行われており、これらの取組を活用しつつ、我が国における効果的な手法等を開発していくことが課題となっている。

4 大学連携による学修 I R

目的：大学の学修成果の把握

実施機関：同志社大学、北海道大学、大阪府立大学、甲南大学

内容：学修状況（学修経験、能力に関する自己認識）、英語運用能力、教育環境・大学生活

実施方法：Web等を用いたアンケート調査

第1学年の学生を対象

実施規模：4大学で約5,000人

JCIRP (Japanese Cooperative Institutional Research Program)

目的：学修過程の把握とそれによる教育改善への活用

実施機関：同志社大学（科研費プロジェクト）

内容：学生の満足度、学修行動・学修習慣

実施方法：アンケート調査

実施規模：大学生調査 16機関約6,000人（平成19年度）

新入生調査 164機関約2万人（平成20年度）

短期大学生調査 9機関約2,000人（平成20年度）

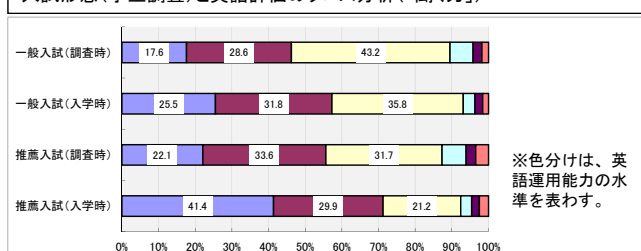
（平成21年現在、3調査でのべ9万人が参加）

【分析の例】

・英語運用能力の評価

各大学の学生の英語能力を共通指標を用いて評価することで、学年進行による変化や、学生の経験の影響等を探る取組を行っている。

入試形態（学生調査）と英語評価のクロス分析（「聞く力」）

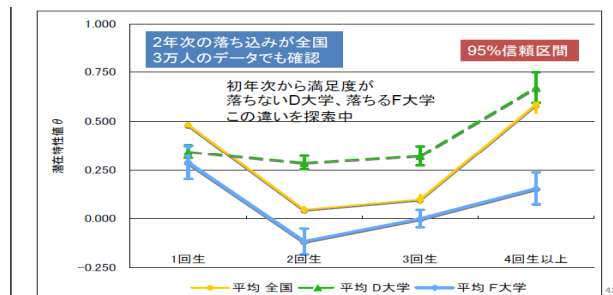


平成21年度採択文部科学省大学教育充実のための戦略的学修支援プログラム「一年生調査2010年」調査報告書（同志社大学、北海道大学、大阪府立大学、甲南大学）から作成。

【統計分析の一例】

・各種の教育統計理論や数値調整を行い、データ分析を実施。

「学生の満足度」を年次で分析しており、年次で推移すること、大学によりその状況が異なることなどを明らかにしている。



同志社大学「JCIRPのご案内」、日本教育社会学会発表資料「JCIRPにみる大学生の諸相」から作成

ループリックについて (1)

- 目標に準拠した評価のための基準の作成方法であり、学生が何を学修するのかを示す評価基準と学生が学修到達しているレベルを示す具体的な評価基準を示すマトリクス形式での評価指標。
- 記述により達成水準等が明確化されることにより、パフォーマンス等の定性的な評価に向くとされ、評価者・被評価者の認識の共有、複数の評価者による評価の標準化等のメリットがある。
- コースや授業科目、課題(レポート)などの単位で設定することができる。

○課程についてのループリックの例

関西国際大学 コモンループリック(リサーチ) 2年制秋学期～(上位学年用)

	3	2	1	0
テーマのたて方 (調査目的の設定)	独創的で、明確なテーマが設定されていて、それについての仮説や調査項目が分かりやすく整理されて示されている。	明確で、実現可能なテーマが設定されていて、それについての仮説や調査項目が示されている。	実現可能なテーマが設定されており、それについての仮説や調査項目が示されている。	実現可能なテーマが設定されているが、一般的な仮説や調査項目しか示されていない。
これまでに明らかにされている知見の活用	信頼できる様々な情報源から、これまでに明らかにされた知見や課題を、自分が明らかにしようとしている内容に関連づけて活用している。	信頼できる複数の情報源から、これまでに明らかになった知見を、リサーチに関連づけて活用している。	複数の情報源からこれまでに明らかになった知見を示している。	複数の情報源から、これまでに明らかになった知見を、部分的にしか示していない。
研究方法と分析の視点	複数の研究方法や分析の視点から、目的とテーマにふさわしいいくつかの研究手法を用い、明確な分析の視点を示している。	複数の研究方法や分析の視点から、目的とテーマにふさわしい研究手法を用い、分析の視点を示している。	目的とテーマに沿った研究手法を用い、分析の視点を示している。	研究方法と分析の視点について、必要なポイントしか捉えられていない。
分析	焦点に沿ってリサーチした内容を組織的にまとめ、類似点・相違点・重要な型(パターン化)の発見など様々な観点から検討している。	リサーチした内容を組織的にまとめ、類似点・相違点・パターン化など様々な観点から検討している。	リサーチで得られた情報をまとめ、類似点・相違点・パターンなど何らかの法則性を検討している。	リサーチで得られた情報をまとめることに終始している。
結論	リサーチから明らかになったことについて整理し、専門基礎知識(自分の専門分野の概念や枠組み)を効果的に用いて、論理的に説明できている。	リサーチから明らかになったことについて整理し、専門基礎知識を用いて論理的に説明できている。	リサーチから明らかになったことについて記述し、専門基礎知識をある程度用いて説明できている。	リサーチから明らかになったことについての記述しかできていない。

ルーブリックについて(2)【アメリカの例】

○科目についてのルーブリックの例

米国ポートランド州立大学「SBA490-Research Foundations」のLiterature Review ルーブリック

TASK DESCRIPTION: You are to find at least 10 research articles related to your Senior project topic. This paper will lead to the development of your Senior research project to be completed in SBA 491.

	Exceeds Expectations(4)	3	2	Needs substantial improvement(1)
Problem	Introductory paragraph describes the problem clearly. Introduction engages reader with problem. Many details and descriptive words used. Thesis is clear in first few paragraphs.	Problem clearly stated. Attempt at engaging the reader, but not persuasive. There is clear in first few paragraphs.	Problem was minor subject in course. Vague description of problem. Weak, not persuasive thesis statement.	Problem not relate to any ideas in course. No clear introduction to paper, just starts with literature review.
Research articles	All peer-reviewed references At least 10 references All research Variety of journals used	Mostly peer-reviewed 8-10 references Mostly research articles.	A few peer-reviewed 5-8 references Some books included	Mostly books and magazines used. 1-5 references
Flow	Arranges ideas from articles in a logical way. Judicious use of information from articles to make case. Organization of ideas from articles evident. Transition sentences used. Paragraphs have topic sentences.	Mostly logical flow from idea to idea. Organization evident with some gaps. Some sections not have transition sentences. Paragraphs have topic sentences.	Difficult to follow line of thinking from paragraph to paragraph. Careless use of information from articles. Paragraphs lack topic sentences & transitions.	Difficult to follow line of thinking. Ideas from articles not in writer's own words. Choppy to read aloud. Paragraphs lack topic sentences & transitions.
Conclusion	Synthesizes key ideas from literature reviewed. Relates closely to problem through thesis statement	Synthesizes key ideas from literature reviewed. Inferred link to problem.	No synthesis. Problem not mentioned.	No synthesis. Problem not mentioned.
Writing conventions	Perfect APA(※) formatting in text and in reference list. 1 grammatical error.	2-3 minor errors in APA formatting. 2-3 grammatical errors.	Noticeable lack of attention to APA. Grammatical errors interfere with reading.	No APA formatting. Many grammatical errors on every page make reading difficult.

(※)APA : American Psychological Association

図書館の機能強化について

千葉大学 (アカデミック・リンク・センター) の事例

「学習とコンテンツ(学習のための多様な資料群)の近接による能動的学習」を実現するため、附属図書館を中核として、以下の三つの機能を提供。

・アクティブ・ラーニング・スペース

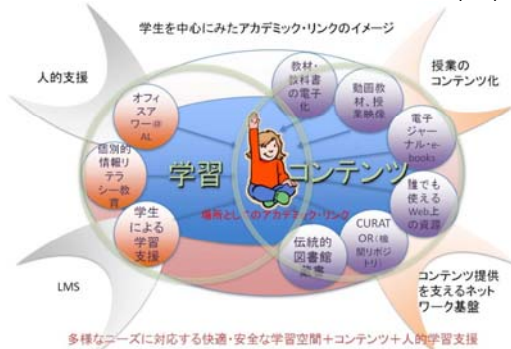
学生が、様々な資料群、情報通信技術あるいは学修を支援する人々(教員、図書館員、学生同士)を最大限活用しながら、グループや個人で学修を行うのにふさわしい場、自らの学修の成果を公表する場。

・コンテンツ・ラボ

授業の事前事後学修やさらにその主題について掘り下げて学修するために有益な図書類やWebサイトの案内機能の強化、授業で使う教材の電子化、授業そのものの録画などを行い、これらの学修に資する資料群を円滑に提供する仕組みを構築。

・ティーチング・ハブ

授業支援システムの運用支援とともに、教材の電子化や情報通信技術の教育への応用等のためのファカルティ・ディベロップメント(FD)、アクティブ・ラーニング・スペースで活動するスチューデント・アシスタント(SA)の育成などを行う。



上智大学の事例

複数の学生が集まって、電子情報も印刷物も含めた様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学修スタイルを可能にする「場」と情報資源を使った学生の自学自習を支援する図書館職員によるサービスを提供するもの(「ラーニング・コモンズ」として、図書館を改修。

・図書館フロアの改修

- 多目的学習スペース(PC利用エリア、グループ学習エリア、プレゼンテーションエリア)を開設。
- あわせて、館内の無線・有線LAN環境を整備

・ライティング指導

- レポート・論文作成指導を行うライティングセンター機能の整備や、その際にTAとして大学院生の活用することなどを検討中。

ラーニング・コモンズ利用案内

2009年10月、中央図書館地下1階南側にラーニング・コモンズがオープンしました。

このラーニング・コモンズは、グループ学習、持ち込みPC利用、プレゼンテーション、シンポジウム、論文レビューや作成など様々な学習用途に利用できるスペースです。図書・雑誌だけでなくデータベース、電子ジャーナルなどの学術資源も活用して、多目的な学習スペースとしてご利用下さい。

■こんなことができます

- PC利用エリア(40席)
PC利用を促進します。
無線LANが利用できます。
- 学習支援スペース(40席)
図書・雑誌・データベース・電子ジャーナルなどの学術資源を最大限活用して、多目的な学習スペースとしてご利用下さい。
- グループ学習エリア(40席)
グループ学習を促進します。
人脈のつながり、教員や学生との交流が期待できます。
- プレゼンテーションエリア(40席)
プレゼンテーションの練習、発表の練習などを行います。
多人数での発表を行うことができます。
プロジェクターなどのプレゼンテーション機器も最大限活用してご利用下さい。
また、講義録音装置も設置されています。



大学ポートレート（仮称）の整備について

1. これまでの検討状況と方向性

- 教育情報協力者会議における検討
- ・教育情報の活用・公表の促進方を審議
 - ・平成23年8月に「中間まとめ」

→大学コミュニティが自主的・自律的に運営する情報発信基盤として「大学ポートレート（仮称）」の整備を提言

データベースを用いた教育情報の活用・公表のための共通的な仕組みを構築

【趣旨】

- ・大学が教育情報を自らの活動状況を把握・分析することに活用。
- ・大学の多様な教育活動の状況を、大学教育に関係・関心を持つ国内外の様々な者に分かりやすく発信。
- ・基礎的な情報について共通的な公表の仕組みを構築し大学の業務負担軽減。

【運営】

大学と大学団体の参画により大学コミュニティが自主・自律的に運営する。

【内容】

- ・公表が義務化された教育情報、学校基本調査の基礎的な情報のほか、小規模大学や地方大学を含む各大学の特色・強みを表す。
- ・画一的なランキングを助長しないようしながら、分野などに着目し一定の範囲で比較可能なものにする。
- ・グローバルな教育活動を重視する大学の海外発信に活用できるようにする。

2. 整備に向けた検討状況

大学ポートレート（仮称）準備委員会が発足（2月17日）

「大学ポートレート」（仮称）の整備についての考え方

- ① 大学が、教育情報を自らの活動状況を把握・分析し、改革につなげるインセンティブ（IR (Institutional Research) の向上）。
 - ・各大学の使命の実現にふさわしい教育課程・学生支援の改善や、学内組織等の整備に自主的に取り組む契機。
- ② 各大学の多様な教育活動を、国内外に分かりやすく発信。
 - ・公表が義務化された教育情報や、大学が統計調査の際に収集する基礎的な情報。
 - ・機能別分化の進展を踏まえ、大学の特色や強みを表示（画一的なランキングを助長しない）。
 - ・グローバルな教育活動を重視する大学に関する情報を海外発信。
- ③ 各大学の業務負担軽減（基礎的な情報を共通に公表することで、大学の個別問合せへの対応を軽減）。

【当面の検討事項】

（基本的な枠組み）

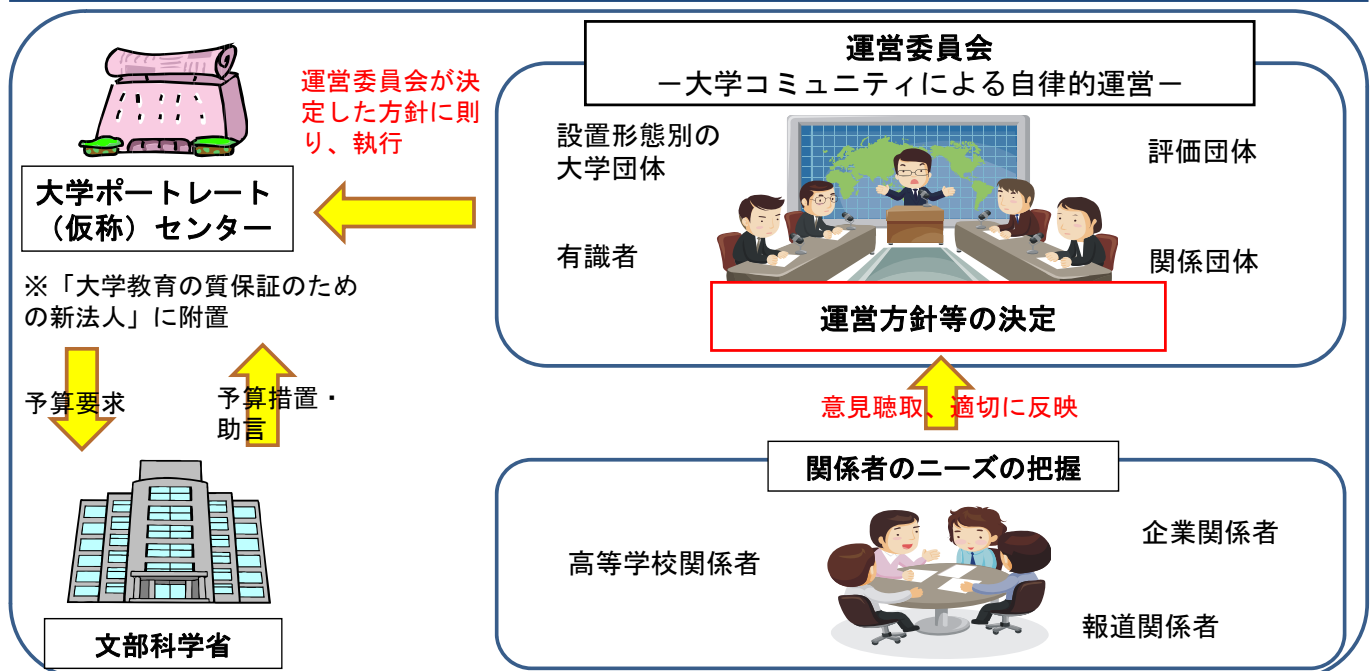
- ・大学ポートレート・センター（仮称）の運営体制
- ・私立大学については、私学事業団において、データベースが構築されていることを前提とした連携の在り方

（情報内容等）

- ・中間で共有する情報、社会に公表する情報の内容
- ・インターネットなどによる表示の方法
- ・認証評価との連携
- ・国や独立行政法人が行う各種調査の見直し

大学ポートレート（仮称）の運営体制等（案）

- 「大学ポートレート（仮称）」の運営方針は、設置形態ごとの大学団体、評価団体、日本私立学校振興・共済事業団等関係する事業を行う団体、有識者からなる「運営委員会」が決定。
 - 運営委員会が決定した方針に基づく執行业務は、「大学教育の質保証のための新法人※」に附置する「大学ポートレート（仮称）センター」が担う。
- ※大学評価・学位授与機構と大学入試センターを統合し、廃止される国立大学財務・経営センターの業務を承継
- 私立大学については、日本私立学校振興・共済事業団で実施している情報収集と連携することにより、各大学の追加負担を回避する。



(参考) アメリカ “College Navigator” の概要

アメリカでは、連邦教育省の全米教育統計センターが、全米の大学の情報を検索・表示できる” College Navigator” を運営している。” College Navigator” は、全米の大学等を対象とした中等後教育総合データシステム(IPEDS)や、他の政府機関(連邦高等教育局、連邦学生支援局)のデータを基に構築されている。

- (1) 開始年：2007年
- (2) 参加大学：全大学
- (3) 運営：連邦教育省全米教育統計センター
- (4) 情報の入力：IPEDSや他の政府データシステム
- (5) 項目の内容：

- ・概要：教員数、大学院生のアシスタント数 など
- ・授業料等：推定費用(授業料、住居費)、平均奨学金取得額
- ・経済的支援：奨学金や学生ローン(取得者数、割合)
- ・卒業までにかかる経費
- ・在校生の構成：入学者数、性別、人種、年齢
- ・入試状況：志願者数、合格者数、入学者数、必要スコア
- ・進級率、卒業率：2年在籍率、卒業率・転出率
- ・分野ごとの学位授与状況：学士、修士、博士等
- ・運動部活動：所属人数
- ・第三者評価の結果：機関別、分野別
- ・キャンパスの安全：キャンパス、学生寮での犯罪件数
- ・教育ローンの債務不履行率

- (6) 表示等の方法：
 - ・検索：大学名、地域、学位の種類、学校のタイプ(公立、私立)
 - ・表示：4大学を並列させて表示可能(表示情報は限定)
 - ・リンク：大学のウェブサイトや元となるデータへリンク

<表示の例>

The screenshot shows the College Navigator interface for the University of California - Los Angeles. It features a search bar, filters for states and ZIP codes, and a list of search options. The main content area displays general information such as the university's name, address, website, and type. It also provides detailed statistics including student population, faculty-to-student ratio, and campus housing. A map of the university's location is visible in the top right corner.

(参考) イギリスの” Unistats” の概要

英国では、大学への公財政の配分を担うHEFCEと大学入試手続を担うUCASが、各大学が提供する教育コース(学士課程と大学院)ごとの情報を一元的に提供する” Unistats” を構築・運営している。

- (1) 開始年：2007年
- (2) 参加大学：全大学
- (3) 運営：大学への公財政配分団体(HEFCE)と大学入学手続を担う団体(UCAS)
- (4) 情報の入力：高等教育統計局(the Higher Education Statistics Agency (HESA))、統計情報の提供を担う団体(the FE data service)、HEFCEの各大学関係の機関・団体と各大学で実施
- (5) 項目の内容：

- 学生の入学時の情報
 - 入学時のスコア分布/入学前に保有する学位等
- 学生の内訳
 - 学生数/学生の男女比/成人学生の割合
 - パートタイム学生の割合/留学生の割合
- 学生の満足度
- 学位取得と進級
 - 学位取得者の状況(ファースト、セカンドほか)
- 卒業後の就職状況
 - 卒業6か月後の就職状況/進学・就職等の割合
- その他 QAAによる機関評価へのリンク

- (6) 表示の方法：三つのコースを選択し、項目ごとにグラフなどを用いて表示

<表示の例>

The screenshot displays the Unistats website interface. It shows a search bar and navigation tabs for 'Student breakdown' and 'Degree class & progression'. The 'Student breakdown' section includes a table with columns for 'UCAS points & entry info', 'Student breakdown', 'National Student Survey', 'Degree class & progression', 'Employment prospects', and 'Uni details'. The 'Degree class & progression' section features pie charts for each of the three universities, showing the distribution of degree results (e.g., First, 2:1, 2:2, 3rd, Fail).